

家畜衛生情報

香 川 県 畜 産 課
 TEL(087)832-3426~8 FAX(087)806-0204
 香川県東部家畜保健衛生所
 TEL(087)898-1121 FAX(087)898-9558
 香川県西部家畜保健衛生所
 TEL(0877)62-0020 FAX(0877)62-3299

平成27年度全国家畜衛生主任者会議から

平成27年4月、家畜衛生にたずさわる関係者が農林水産省で一堂に会し、全国家畜衛生主任者会議が開催されました。本会議から、畜産農家の皆さんに関係する事項をお知らせします。

<牛関係>

- ①牛トレーサビリティ制度は、生産・流通・消費段階で利用され不可欠なものになっていますが、届出をせず虚偽の報告の場合、罰則の対象となります。管理者自らの責務である耳標の装着や届出は速やか、かつ正確に行いましょう。
- ②牛白血病はウイルスを含む血液や乳汁を介して感染する病気で、治療法やワクチンは無く、届出件数は増加傾向にあります。感染拡大防止を効率的に進めるため、注射針や直検手袋の交換、吸血昆虫対策など具体的な感染拡大防止対策を定めたガイドラインが作成されました。牛の飼養者、獣医師、家畜人工授精師など関係者が一体となって衛生対策に取り組む必要があります。また家畜共済も平成27年5月1日から、と畜場で牛白血病と診断され全廃棄の場合でも、共済金支払対象となりましたが、免責基準もありますのでご注意ください。
- ③BSEは平成21年以降確認されておらず、取り巻く状況も変化していることから、平成27年4月1日から死亡牛のBSE検査対象月齢が24か月齢以上から48か月齢以上に見直しされました。

<豚関係>

豚流行性下痢は飼養衛生管理の徹底やワクチンの適切な使用により発生件数は低めの水準で推移していますが、引き続き防疫マニュアルに沿った対応をお願いします。

<鶏関係>

高病原性鳥インフルエンザは、我が国では平成26年度に6件の発生がありましたが感染拡大阻止で終息しました。しかし、韓国、台湾においては連日のように発生が確認されています。我が国にこれらの病原体が侵入するリスクは依然高い状況ですので、飼養衛生管理基準の遵守を徹底し、病原体の侵入を防止してください。

疾病情報

家畜伝染病・伝染性疾病発生状況(近県)

疾病名	畜種	発生場所	発生時期	発生戸数	発生頭羽数
ヨネ病(法定)	牛	高知県	H.27.4月	1	2
牛白血病(届出)	牛	兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県、島根県、山口県、愛媛県、徳島県、高知県、香川県	H.27.4~H.27.6月	69	70
牛ウイルス性下痢粘膜炎(届出)	牛	兵庫県、鳥取県	H.27.4~H.27.6月	3	5
牛伝染性鼻気管炎(届出)	牛	広島県	H.27.5月	1	3
破傷風(届出)	牛	兵庫県、岡山県	H.27.5~H.27.6月	2	2
豚流行性下痢(PED)(届出)	豚	愛媛県	H.27.4月	1	550
豚丹毒(届出)	豚	兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県、島根県、愛媛県、高知県、香川県	H.27.4~H.27.6月	24	48
サルモネラ症(届出)	豚	山口県	H.27.4月	1	2
豚繁殖・呼吸障害症候群 PRRS(届出)	豚	山口県	H.27.4月	1	1
伝染性ファブリカス囊病 IBD(届出)	鶏	愛媛県	H.27.4月	1	5
レプトスピラ症(届出)	犬	高知県	H.27.5月	1	1

ヨーネ病の診断と防疫について ～平成27年度家畜衛生特殊講習会（牛疾病）より～

ヨーネ病は、ヨーネ菌によって起こる牛の慢性消化器感染症です。家畜伝染病の中でも特に発生頭数が多いもので、本県では4年に一度、搾乳牛（候補牛）での全頭検査をお願いしています。ヨーネ菌は発症牛の糞便から大量に排菌され、同居牛に感染するほか、乳汁からも排菌されるために母牛から子牛への感染も心配されます。特に、6ヵ月齢以下の子牛が感染した場合に将来ヨーネ病を発症する可能性が高いため、次の世代に引き継がれていき、清浄化が思うように進まないことになります。特にここ数年の間に発症頭数が増えてきており、予断を許さない状況になりつつあります（表1）。

ヨーネ病の清浄化のためには、ヨーネ菌を排菌している牛をできるだけ早く摘発・淘汰することが必要ですが、現在の検査法ではヨーネ菌に感染しているが、糞便から排菌していない牛（つまり、将来ヨーネ菌を糞便から大量に排菌する可能性のある牛）を摘発できないため、検査後しばらくしてから発症牛となることもあります。そのため、定期検査のほかに、日頃から健康観察を十分にさせていただくことが重要になります。

ヨーネ菌に効果のある消毒薬には、消毒用（70%）エタノール・塩化ジデシルジメチルアンモニウム剤・ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム・消石灰乳が効果的であるため、過去にヨーネ病が発生した農場や疑いのあった農場などでは、定期的な牛舎消毒を推奨します。

現在、より感度の高い検査方法を国の研究機関が開発しております。その際は、今まで以上に多くの牛が摘発・淘汰の対象になることが予想されますが、ヨーネ病の清浄化のために、繰り返しになりますが、日頃の健康管理に努めていただき、消毒の日（毎月20日）には、牛舎環境の消毒もよろしくをお願いします。

表1. 近年の全国でのヨーネ病発生状況

	全 国	うち香川県	うち北海道
H24	211 戸 405 頭	1 戸 1 頭	158 戸 316 頭
H25	293 戸 573 頭	0	210 戸 433 頭
H26	326 戸 783 頭	0	252 戸 657 頭

病性鑑定だより

平成27年1月～6月までの病性鑑定実績は表のとおりでした。依頼が多かった検査は、牛では乳房炎検査（73件）、持続感染牛が問題となる牛ウイルス性下痢粘膜病検査（29件）、近年増加傾向にある牛白血病（17件）、豚では昨年流行した豚流行性下痢（16件）、鶏では鳥インフルエンザ（12件）でした。

今期、疾病診断を実施した中で、被害が大きく特筆すべき疾病としては、牛ボツリヌス症の発生がありましたので、この病気について紹介します。

病性鑑定実績

畜種	件数	延頭羽数
乳用牛	136	713
肉用牛	32	168
豚	28	470
鶏	25	416
その他	23	180
計	244	1,947

牛ボツリヌス症

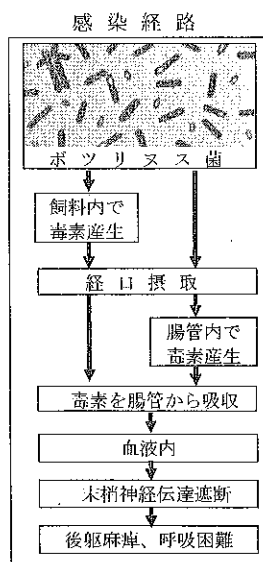
クロストリジウム ボツリナム

原因：*Clostridium botulinum* 菌が産生する神経毒素。菌は酸素のある環境では増殖しにくく、抵抗力が強い芽胞を形成して土壌等にいます。また、カラスの糞の中からも分離されています。毒素はA～G型の7種類で、神経を麻痺させます。牛にはC、D型毒素と一部B型毒素が呼吸困難、後躯麻痺や起立不能を起こします。近年はCとD型の中間のタイプによるものが多く見られます。本県で今期発生した症例はすべてD型毒素によるものでした。

感染経路：菌が産生した毒素を含むサイレーズ等の飼料や芽胞を形成した菌に汚染された飼料を食べることによって発症します。（図）

症状：牛はごく微量の毒素でも発症します。体温は平熱程度ですが餌を食べなくなりよだれを出し、起立不能となり、ついには呼吸困難で死亡します。多くは数日から1週間の経過をとります。

予防対策：治療は困難なので、牛舎の定期的な清掃・消毒や野生動物の侵入防止など、衛生対策やワクチンによる予防などを行います。



野鳥の鶏舎侵入防止対策について (平成27年度鶏疾病講習会より)

高病原性鳥インフルエンザの発生があった農場では、鶏舎の壁や防鳥ネット等に不備や破損があり、野鳥の侵入可能な隙間があったことが確認されていることから、独立行政法人農研機構中央農業総合研究センターが平成24年3月～6月に茨城県南部の養鶏場20施設で野鳥の調査を実施したところ、鶏舎とその周囲で1007羽の野鳥が確認され、その内、スズメ93羽、ムクドリ15羽が鶏舎内に侵入していることが確認されたという結果が報告されています。

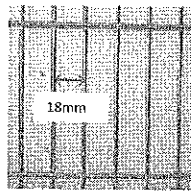
この調査を行った養鶏場では、

- ① 開口部に亀甲金網やネットを設置しているが、網目サイズが大きい。
- ② 設備の維持管理が不十分で、金網やネット等に穴がある。
- ③ 屋根の下や金網の取り付け部分に鳥が侵入できる隙間がある。

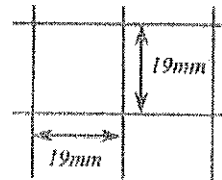
といった問題が見受けられ、侵入防止対策が万全とはいえない鶏舎が多かったことが確認されました。

そこで、侵入防止対策として使用する溶接金網、防鳥ネット、亀甲金網を用いてスズメの鶏舎への侵入防止試験を行いました。様々な網目の大きさを試験を実施したところ、溶接金網では短辺18mm以下、防鳥ネットでは19mm×19mm以下、亀甲金網では短辺20mm以下であればスズメの侵入を防ぐことができるという結果が得られました。

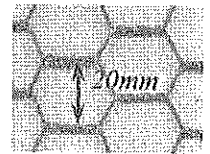
日頃から野鳥の侵入防止対策のほか、農場への立入制限、消毒の徹底等に心がけ、飼養衛生管理の遵守をお願いします。



(溶接金網)



(防鳥ネット)



(亀甲金網)

蜜蜂について

(平成27年度 家畜衛生講習会(基本講習会)から)

蜜蜂はコロニー単位で生活し、生殖カーストである女王バチと労働カーストである働きバチの文化が明瞭な昆虫の一種です。1群には1匹の女王バチ、複数の雄バチ、多数の働きバチ(雌)に分かれており、幼虫期にロイヤルゼリーを十分に与えられると、女王バチになり、そうでないと働きバチになります。複数の雄バチは、不受精卵から発生・発育し繁殖期だけ生産されます。蜜蜂は加齢に伴って仕事が変わっていく「日齢分業」という形をとっています。羽化すると巣房の掃除役をこなし、1週間程度でミルクの合成と育児をするようになります。3週間程度で外勤をするようになります。約10日間蜜や花粉の収集をこなすと寿命を終えます。この分業の流れは基本パターンで決まっていますが、季節や巣内の状況によって変動することがあります。

5月頃は分蜂という繁殖行動を行う時期であり、群内に新しい女王バチが誕生すると、前代の女王バチは働きバチを約半数連れて新しい営巣場所を探しに行きます。この行動は、女王バチが生まれる毎に行われます。分蜂中は集団行動をしており、蜜蜂の群が1カ所にかたまつて観察されることがあります。刺針は産卵管に由来した構造なので、雄バチにはなく働きバチと女王バチだけが刺します。巣箱に刺激を与えた時は働きバチに攻撃されることがあるので注意してください。

近年、全国的に蜜蜂の飼養が増加傾向にあり、糞害の発生や無届出の飼育について苦情が発生しています。良い環境で蜜蜂を飼うためにも、マナーを守り、事故やトラブルの防止に努めることが大切です。蜜蜂を飼育するには、養蜂振興法に基づく、県畜産課への届出(①農作物等の花粉受精の用に供するために蜜蜂を飼育する者②研究目的で蜜蜂が出入りできない密閉された設備で蜜蜂を飼育する者は除く)が必要です。また変更が生じた場合も30日以内に変更届の提出をお願いします。蜜蜂の届出や病気等について分からないことがあれば最寄りの家畜保健衛生所までお問い合わせください。

小豆総合事務所 家畜保健衛生室より

家畜保健衛生室長 松元良祐

小豆総合事務所家畜保健衛生室（東部家畜保健衛生所小豆支所）は、小豆郡土庄町の伝法川沿いの住宅地の中にあります。昭和27年に現在の場所に設置され今日に至っています。家保の沿革史によると、当初は乳牛が約700頭、和牛（役牛及び肥育牛）は約3,000頭も飼養される県内でも有数の畜産地域だったようです。現在でも小豆島、豊島、小豊島の3島で特に肉牛が多く飼養されています。

近年では、島内の生産者の方が開発したオリーブ牛が、生産者と行政、関係団体が一体となったPR活動の成果などによって知名度は高まっています。マスコミや食肉関係の方が連日のように島に視察に来られていますし、遠くは岩手や愛知の中学生が修学旅行の学習先としてオリーブ牛を選んで牛舎まで訪れるほどです。この盛り上がりチャンスを小豆島の畜産がますます発展していくことを願って、家畜保健衛生室でも畜産振興業務に尽力しているところです。

今年4月から小豆島に勤務していますが、青い瀬戸内の海に囲まれた小豆島は奥深く魅力的なところ。小豆島八十八カ所や二十四の瞳、中山や豊島の棚田など歴史と信仰あり、寒霞渓やエンジェルロードなどの景勝地、そうめん、醤油、ごま油、そしてオリーブとオリーブ牛など豊かで幅広い食べ物あり、どれも実力を伴ったすばらしいものばかりで、一つの島の中にこれだけぎっしり観光要素が詰まっている島はないのではと思います。これからも観光と畜産と相乗効果で盛り上がってほしいと思っています。



干潮時に歩いて渡ることが可能となる道「エンジェルロード」

＜お知らせ＞

○平成27年度家畜商講習会を開催します

県では、隔年で家畜商講習会を実施しています。本年度は、12月に2日間の日程で開催する予定です。詳細は、10月以降の県畜産課HPに掲載します。

お問合せ先 畜産課総務・経営グループ 中村 (087-832-3430)

○家畜衛生研修会

①香川県鳥インフルエンザ研修会並びに香川県家畜防災研修会

日時：8月28日(金) 13:30～16:00 場所：高松国分寺ホール(旧国分寺町役場隣)

演題 1「熊本県における高病原性鳥インフルエンザの発生と防疫対応」熊本県畜産課

2「宮城県における東日本大震災による畜産被害と対応」宮城県東部家畜保健衛生所

②香川県牛白血病研修会

日時：9月10日(木) 14:00～15:30 場所：高松国分寺ホール(①と同じです)

演題 「牛白血病の現状と対策」動物衛生研究所

*是非ご参加ください。なお、参加希望者は、①は8月20日までに、②は9月3日までに畜産課衛生環境グループ 高橋 (087-832-3428) までご連絡ください。

○第14回全日本ホルスタイン共進会

日時：10月23日(金)～10月26日(月)

場所：安平会場 北海道勇払郡安平町早来

○第79回香川県畜産共進会

第1部(乳用牛)、第2部(肉用種牛)11月11日(水)、12日(木)7:00～ 香川県家畜市場

第3部(肉豚)11月6日(金)、7日(土)10:30～ 坂出市 株式会社香川県畜産公社

第4部(肉牛)12月2日(水)、4日(金)11:45～ 坂出市 坂出食肉地方卸売市場

知事賞授賞式：11月21日(土) 高松市林町 サンメッセ香川